



「合う」と「会う」は、どう使い分けるの

「合う」の使いかた

「合う」は、「計算が合う」のように、「ぴったりあう」という意味のときに使います。また、「話し合う」「目が合う」のように、「たがいに～する」という意味のときにも使います。

「会う」の使いかた

「会う」は、「友だちに会う」「客と会う」「ばったり会う」のように、「約束してあう」とか「ぐう然にあう」という意味のときに使います。

「会う」と「合う」の使い分け

「会う」と「合う」を使い分けるときには、「会う」は人の場合、「合う」は物の場合に使うことを覚えておけば、混乱することはありません。

また、「遭う」という字もありますが、これはできごとの場合に使います。

「出会う」と「出会う」

自分の家ではない所で、人とあうことを、「出あう」といいます。また、美しい風景やよい本に「出あう」ということもあります。このようなときは、「出会う」「出会う」のどちらも使いますが、人と出あうときは「出会う」、物事と出あうときは「出会う」と、使い分けることもあります。（監修・田代 脩）

